

令和3年10月12日

蕨市長 頼高 英雄 様

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

会長 林 大樹

### 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見について

本有識者会議は、市長より委員の委嘱を受けて、令和3年7月30日に蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について検証を行った。

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる取組は、前回の総合戦略（平成27年度～令和元年度）の成果・検証等を踏まえつつ、引き続き、地方創生の推進に向けて、概ね着実に実施されているものと思われる。

今後も、新型コロナウイルス感染症といった新たな脅威にも対応しながら、引き続き、持続可能な都市として発展し続けるため、本戦略で掲げる取組を推進されたい。

なお、検証の過程で出された意見については、別添の「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見」に整理したので、施策・事業の推進にあたっては十分に配慮・検討されたい。

## 別添

### 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見

#### (全体)

○本市の人口動態については、合計特殊出生率の低さが課題である一方、東京都区部からの転入や外国人の増加など社会増を背景に、近年、総人口は増加傾向となっている。将来にわたり持続可能な都市として機能を果たしていくため、これらの課題を分析し、今後の施策に反映していくことが重要である。

#### (蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について)

○近年、その傾向は緩やかになっているものの、依然として子育て世代の転出超過の傾向が続いているとともに、合計特殊出生率については、埼玉県内の市において最も低い数値（令和元年は0.92）となっている。まちの活力を維持していくためには、若い世代の定住促進を図ることが重要であることから、結婚、出産、子育て支援に係るシームレスな施策の推進を図られたい。

○外国人の定住化が進むなか、蕨市に住む外国人の割合は、総人口の10%を占める状況となっている。日本人も外国人も住みよいまちづくりを進めていくため、言葉や文化、習慣の違いなど相互理解を育むとともに、地域社会の構成員として町会をはじめとしたコミュニティへの参画を促す仕組みづくりなど、多文化共生のまちづくりをいっそう推進されたい。

#### (蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について)

○これまで、保育施設の増設など、子育て環境の充実に向けた施策が進められてきた。保育施設については、多様化する保育ニーズや待機児童数の推移を見極めながら、引き続き、今後の整備・検討を進められたい。

○子育て・教育環境のいっそうの充実を図るとともに、取組の発信を通じた「蕨のブランド力」の向上を図るなど、子育て世代から選ばれるまちづくりを推進されたい。更に、「蕨市で子どもを生んでもらうのか」、「蕨市に子育て世代を呼び込むのか」など、市としてのビジョンを明確化するなどし、より戦略的・効果的な取組につなげられたい。